

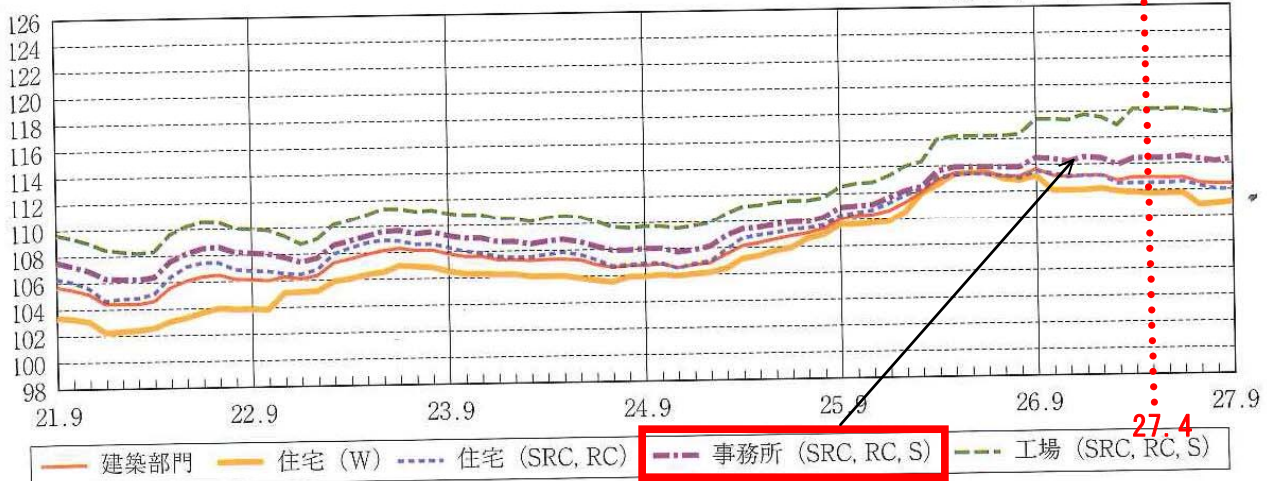
統計

建設資材物価指数

統計

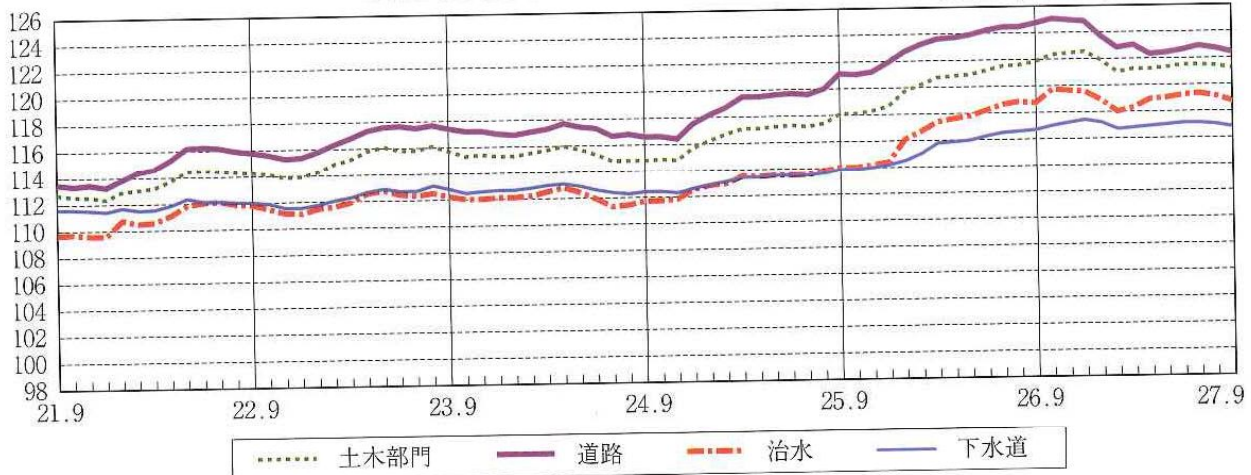
建設資材物価指数 建築部門（東京都区部）

平成17（2005）年平均=100



建設資材物価指数 土木部門（東京都区部）

平成17（2005）年平均=100



建設物価調査会調べ

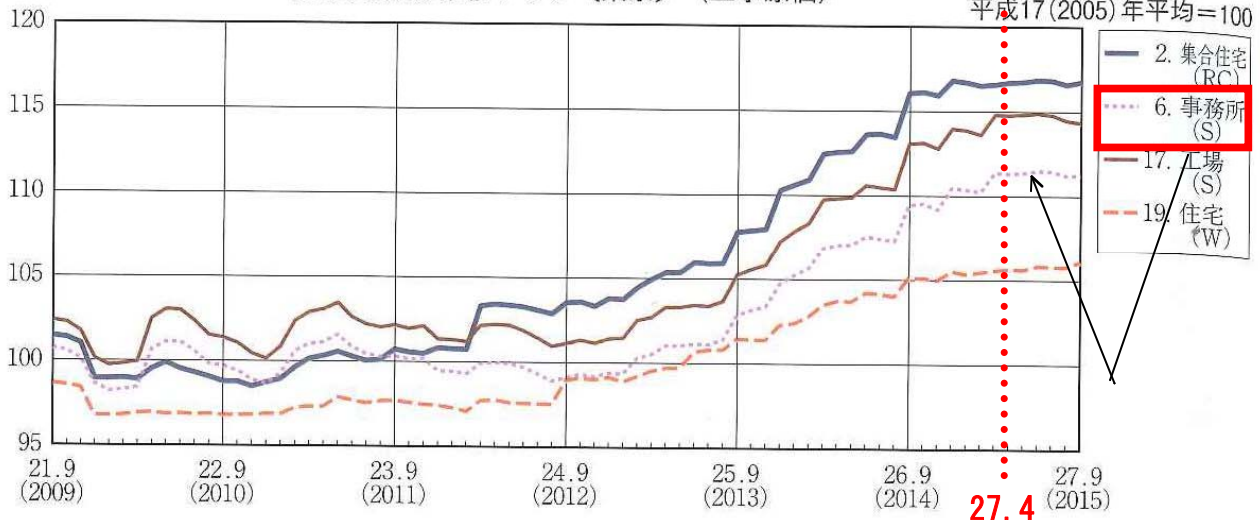
各都市の平成17(2005)年平均=100

【建設資材物価指数 (2)】都市別・部門別指数

年月	部門									
	東京	大阪	名古屋	福岡	那覇	広島	高松	新潟	仙台	札幌
平成21(2009)年平均	103.8	103.4	104.3	103.0	103.9	105.7	104.6	104.5	104.7	105.3
22(2010)	103.6	102.7	103.4	101.7	103.2	105.3	102.6	103.4	103.8	104.0
23(2011)	106.3	104.4	104.5	103.1	104.3	107.0	103.8	104.4	105.0	104.3
24(2012)	105.9	103.9	104.1	102.7	104.0	106.8	103.3	104.1	105.6	104.8
25(2013)	108.2	106.2	106.4	104.7	105.8	108.7	105.2	106.5	108.9	107.5
26(2014)	112.5	110.4	109.9	109.0	109.6	112.6	109.6	110.9	113.1	110.9
平成26(2014)年9月										
10	113.1	111.0	110.5	109.6	109.8	113.3	110.2	111.6	113.7	111.5
11	112.0	109.9	109.5	108.8	109.7	112.3	109.6	110.6	112.7	111.4
12	112.0	109.8	109.4	108.7	109.6	112.2	109.5	110.5	112.8	111.3
平成27(2015)年1月										
2	112.1	109.8	109.7	108.7	109.6	112.2	109.4	110.5	112.8	111.6
3	111.9	109.6	109.5	108.5	109.5	112.0	109.2	110.3	112.6	111.4
4	111.8	109.5	109.4	108.4	109.7	111.9	109.1	110.3	112.5	111.4
5	111.7	109.2	109.0	108.1	109.6	111.6	109.0	109.9	112.2	111.3
6	111.7	109.1	109.0	108.0	109.5	111.9	108.9	109.9	112.2	111.3
7	111.7	109.1	109.0	108.1	109.5	111.9	108.9	109.9	112.2	111.3
8	110.8	108.3	108.3	107.5	109.4	111.1	108.1	109.1	111.5	111.2
9	110.9	108.3	108.3	107.5	109.5	111.2	108.1	109.2	111.5	111.2
10	111.0	108.4	108.4	107.5	109.7	111.2	108.2	109.2	111.6	111.3

統計 **建築費指数** 統計

建築費指数 推移グラフ [東京] (工事原価)



「建築費指数」は、建築物の工事価格の動向を把握することを目的として作成されており、本誌「建設物価」及び季刊「建築コスト情報」の掲載価格等を用いて算出している指数である。

なお、本指数の詳細については、建設総合サイト「建設 Navi」(<http://www.kensetu-navi.com/>)を参照されたい。

建築費指数の概況 [東京] [平成27(2015)年9月分]

(1) No.2 集合住宅 RC

工事原価で見ると116.7(暫定)で前月比0.15%増(+0.17ポイント(以下、pとする))、前年同月比0.60%増(+0.70p)となっている。純工事費で見ると117.3(暫定)で前月比0.16%増(+0.18p)、前年同月比0.59%増(+0.68p)となっている。

純工事費指数117.3(暫定)の前月比0.16%増に対する主要細目の寄与度をみると、寄与度がプラスの細目は、上記を除くその他建築細目[+0.24]、空調機器[+0.003]である。寄与度がマイナスの細目は、鉄筋[-0.09]、衛生配管[-0.002]、鋼材[-0.001]である。

()内は前月または前年との指数差である。また、[]内は純工事費に対する寄与度である。

(2) No.6 事務所 S

工事原価で見ると111.2(暫定)で前月比0.02%増(+0.02p)、前年同月比1.64%増(+1.79p)となっている。純工事費で見ると111.5(暫定)で前月比0.02%増(+0.02p)、前年同月比1.66%増(+1.83p)となっている。

純工事費指数111.5(暫定)の前月比0.02%増に対する主要細目の寄与度をみると、寄与度がプラスの細目は、上記を除くその他建築細目[+0.16]、空調機器[+0.03]である。寄与度がマイナスの細目は、鋼材[-0.15]、鉄筋[-0.02]、衛生配管[-0.001]である。

(3) No.17 工場 S

工事原価で見ると114.3(暫定)で前月比0.10%減(-0.12p)、前年同月比1.13%増(+1.28p)となっている。純工事費で見ると114.6(暫定)で前月比0.11%減(-0.12p)、前年同月比1.12%増(+1.27p)となっている。

純工事費指数114.6(暫定)の前月比0.11%減に対する主要細目の寄与度をみると、寄与度がプラスの細目は、上記を除くその他建築細目[+0.05]、空調機器[+0.03]である。寄与度がマイナスの細目は、鋼材[-0.16]、鉄筋[-0.03]、衛生配管[-0.002]である。

(4) No.19 住宅 W

工事原価で見ると106.1(暫定)で前月比0.31%増(+0.33p)、前年同月比0.95%増(+1.00p)となっている。純工事費で見ると106.0(暫定)で前月比0.35%増(+0.37p)、前年同月比0.86%増(+0.90p)となっている。

純工事費指数106.0(暫定)の前月比0.35%増に対する主要細目の寄与度をみると、寄与度がプラスの細目は、上記を除くその他建築細目[+0.36]である。寄与度がマイナスの細目は、鉄筋[-0.01]、衛生配管[-0.002]である。

細
(純工
(建
生コン
型
鉄筋加
鋼
鉄骨
アスフ
木
軽鉄
モルタ
アルミ
石こう
上記以
外
(設
電気
照明
電線・ケ
衛生
衛生
空調
空調
上記以
外)

細
(純工
(建
生コン
型
鉄筋加
鋼
鉄骨
アスフ
木
軽鉄
モル
アルミ
石こう
上記以
外
(設
電気
照明
電線・ケ
衛生
衛生
空調
空調
上記以
外)

注. 各項

建築工事費主要細目動向

平成27(2015)年
9月調査・東京

平成17(2005)年平均=100・東京



細目	規模仕様	単位	価格	前号比	気配	掲載ページ
鉄筋加工組立(市)	RCラーメン構造 階高3.5~4.0m程度 形状単純 200t程度	機械・手間 t	57,000	→	→	4
鉄筋ガス圧接(市)	D25-D25	// 箇所	560	→	→	8
コンクリート打設(市)	躯体コンクリート	手間 m ³	820	→	→	10
普通合板型枠(市)	ラーメン構造 地上軸部 階高3.5~4.0m程度	材工共 m ²	5,400	→	→	14
鉄骨現場建方費	事務所ビル 施工規模200t	手間 t	9,270	→	→	184
アスファルト防水(市)	A-2 密着工法 平部	材工共 m ²	3,000	→	→	18
軽量鉄骨壁下地(市)	65形 間隔300 直張り	// //	1,550	→	↗	20
床モルタル塗り(市)	金ごて 厚28mm 張物下地	// //	1,820	→	→	22
フロート板ガラス(市)	厚5mm 特寸2.18m ² 以下	// //	1,630	→	→	26
EP塗り(市)	(索地ごしらえB種共) せっこうボード面	// //	790	→	→	28
床ビニル床タイル張り(半硬質)(市)	厚2.0mm コンポジション ビニル床タイル KT	// //	1,470	↗	→	30
壁せっこうボード張り(市)	厚12.5mm 不燃 突付け	// //	830	→	↗	32
絶縁ケーブル工事 600Vビニル絶縁ビニルシースケープル(平型)(VVF)(市)	ころがし配線 2心 2.0mm	// m	340	→	→	36
電線管工事 ねじ無し電線管(EP)(市)	隠ぺい・埋込配管 19mm	// //	890	→	→	38
保温工事(ダクト)(市)	長方形ダクト(グラスウール保温材) 屋内隠ぺい、ダクトシャフト内、厚さ25mm	// m ³	5,910	→	↗	60
ダクト工事 アンクル工法(低圧ダクト)(市)	長辺寸法450<L≤750 板厚0.6mm	// //	5,710	→	→	78

東京基準
前号比 ▶ ↗ 上伸 ◀ 変わらず ↘ 下落
気配 ▶ ↗ 強含み ◀ 横ばい ↘ 弱含み